安全データシート

トランスフォーム™ フロアブル

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日: 2024/07/10
1.2	2025/09/30	800080005345	初回作成日: 2024/07/10

Corteva Agriscience™ は、この製品の使用者が、重要な情報を記載しているこの(M)ＳＤＳを熟読され、ご理解されるようお願いしております。この SDS は、職場における人の健康および安全性の保護、環境保護、緊急時の対応を支援する情報を製品の使用者に提供します。製品を使用される際は、主に製品容器に添付されている製品ラベルを参照する必要があります。この SDS は、日本の法規制及び JIS Z 7253 に準拠して作成されたものであり、日本以外の国の規制を満たすものではありません。

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : トランスフォーム™ フロアブル

供給者の会社名称、住所及び電話番号

会社情報
製造業者/輸入業者
コルテバ・アグリサイエンス日本株式会社
100-6110 東京都千代田区永田町 2-11-1

会社電話番号 : 03-3519-3190
電子メールアドレス : SDS@corteva.com

緊急連絡電話番号 : 0800-170-5827

推奨用途及び使用上の制限
推奨用途 : 殺虫剤

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類
水生環境有害性 短期（急性） : 区分 2

水生環境有害性 長期（慢性） : 区分 2

GHS ラベル要素
絵表示又はシンボル :



注意喚起語 : なし

™ ®コルテバ・アグリサイエンスならびにその関連会社商標

危険有害性情報 : H411 長期継続的影響によって水生生物に毒性。

注意書き :

安全対策:

P273 環境への放出を避けること。

応急措置:

P391 漏出物を回収すること。

廃棄:

P501 内容物／容器を承認された処理施設に廃棄すること。

GHS 分類に該当しない他の危険有害性

知見なし。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

成分

化学名	CAS 番号	含有量 (% w/w)	化審法 (ENCS)/安衛法 (ISHL) 番号
スルホキサフロル	946578-00-3	9.5	8-(1)-4200
プロピレングリコール	57-55-6	4.5	2-234

4. 応急措置

吸入した場合 : 新鮮な空気の場所に移動させる。呼吸停止の時は救急隊または救急車を呼び、人工呼吸を施す。マウスツーマウス式人工呼吸を行う時は、レスキュー用保護具(ポケットマスクなど)を使用する。中毒情報センターに連絡するか医師に治療のアドバイスを求めること。

皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類を脱がせる。直ちに皮膚を大量の水で 15～20 分間洗浄する。中毒情報センターに連絡するか医師に治療のアドバイスを求めること。

眼に入った場合 : 眼を開いたまま 15～20 分水でゆっくりと優しく洗い流す。コンタクトレンズを装着している場合は、5 分洗眼してからはずし、さらに洗眼を続ける。中毒情報センターに連絡するか医師に治療のアドバイスを求めること。

飲み込んだ場合 : 緊急医療措置は必要ない。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 : 知見なし。

応急措置をする者の保護 : 応急措置担当者は自分の安全確保に注意を払い、推奨されている防護服(耐薬品手袋、飛沫防護)を使用する。
ばく露する可能性がある場合は、第 8 項の保護具の情報を参照。

医師に対する特別な注意事項 ： 特別な解毒剤はない。
ばく露に対する治療は、患者の症状に応じて臨床的処置を行う。
中毒情報センターや医師に電話する場合、または治療を受けに行く場合は、この安全データシートのほか、できれば製品の容器またはラベルを手元に用意すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤 ： 水噴霧
耐アルコール泡消火剤
二酸化炭素（CO2）
粉末消火剤

使ってはならない消火剤 ： 知見なし。

特有の危険有害性 ： 燃焼生成物にさらされると、健康に危害を及ぼす可能性がある。
火災時には消火用水が排水溝ないし水路へ流出しないよう防止すること。

有害燃焼副産物 ： 火災時の煙には、元の物質に加えて、毒性や刺激性があるかもしれない様々な燃焼生成物が含まれていることがある。
燃焼生成物は以下のものを含むことがあり、またこれだけとは限らない：
炭素酸化物
窒素酸化物(NOx)
硫黄酸化物
フッ化水素

特有の消火方法 ： 汚染した消火廃水は回収すること。排水施設に流してはならない。
火災の残留物や汚染した消火廃水は、関係法規に従って処理する。
安全であれば未損傷コンテナを火災領域から離す。
区域から退避させること。
現場の状況と周辺環境に応じて適切な消火手段を用いる。
未開封の容器を冷却するために水を噴霧する。

消火を行う者の保護 ： 消火活動時には必要に応じて 自給式呼吸装置を装着する。
保護具を使用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 ： 適切な安全設備を用いること。追加情報として、第８項、暴露防止及び保護措置を参照。

環境に対する注意事項 ： 製品が河川、湖水または排水管を汚染した場合は、関連当局に連絡する。

環境への放出は必ず避けなければならない。
安全を確認してから、もれやこぼれを止める。
広範囲に広まるのを防ぐ（封じ込めまたはオイルバリアなどによる）。
汚染された洗浄水を保管し、処分する。
流出が著しく回収できない場合は、地方自治体に通報する。
土壌、排水溝、下水道、水路や地下水への流入を防ぐ。項目12の環境影響情報を参照。

封じ込め及び浄化の方法及び機材 : 適切な吸収剤を使って流出の残余物を除去する。
本物質、ならびに放出物の清掃に使用した資材および品目の放出および処分については、地方または国の規制が適用される場合がある。
漏洩物質が更に反応し、容器内が加圧状態になることがあるので、通気孔から水が侵入しないようにすること。
大規模な流出の場合は、物質が広がらないように、堤防で囲うか、他の適切な封じ込めを行う。堤防で囲った物質をポンプで汲み出せるのであれば、回収物質は、ベント付き容器に保管すること。
廃棄に備え適切な容器に入れて蓋をしておく。
吸収材（例：布、フリース）で拭き取る。
石灰、アルカリ溶液、またはアンモニアで中和する。
不活性の吸収材（例えば、砂、シリカゲル、酸性結合剤、汎用結合剤、おがくず）で吸収させる。
追加情報として、項目13の廃棄上の注意を参照。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

安全取扱注意事項 : 蒸気/粉じんを吸い込まない。
十分な衛生的作業を行い安全規定に従って取扱う。
作業エリアでは、喫煙、飲食は禁止する。
漏れや廃棄物を防止し、環境への放出を最小限にするよう注意する。
適切な安全設備を用いること。追加情報として、第8項、暴露防止及び保護措置を参照。

接触回避 : 酸塩化物
酸化剤
還元剤

保管

安全な保管条件 : 密閉容器に保管すること。
一度開けた容器は注意深く再度密封し、漏れを避けるためまっすぐ立てておく。
適切なラベルのついた容器に入れておく。
各国の規定に従って保管する。

混触禁止物質 : 酸の近くに保管しない。
強酸化剤

安全な容器包装材料 : 適さない材質: 知見なし。

8. ばく露防止及び保護措置

作業環境における成分別暴露限界/許容濃度

成分	CAS 番号	指標 (暴露形態)	管理濃度 / 濃度基準値 / 許容濃度	出典
スルホキサフロル	946578-00-3	TWA (吸入濃度)	0.1 mg/m3	ACGIH

設備対策 : 局所排気装置や他の排気装置を使用して、気中濃度が許容濃度や管理濃度より低くなるように管理する。許容濃度や管理濃度が設定されていない場合、通常の作業は全体換気を行うことで十分である。
一部の作業には局所排気装置が必要になることがある。

保護具

呼吸用保護具 : 許容濃度や管理濃度を超える可能性がある場合、呼吸器保護具を着用すること。許容濃度や管理濃度が設定されていない場合、呼吸器刺激や不快感等がある場合、又はリスク評価において必要であると示された時、呼吸器保護具を着用する。たいていの場合、呼吸用保護具は必要ない。ただし、不快感がある場合は、認可されたろ過式呼吸用保護具を使用する。

手の保護具

備考 : 長時間または何度も繰り返し接触する可能性がある場合は、この物質に対し耐薬品性のある手袋を用いること。望ましい手袋の素材の例：ブチルゴム。天然ゴム(ラテックス)。ネオプレン。ニトリル/ブタジエンゴム(ニトリルまたはNBR)。ポリエチレン。エチルビニルアルコールラミネート(EVAL)。ポリ塩化ビニル(PVCまたはビニル)。注意：特定の用途と作業場での使用時間に適合した手袋を選択するときは、以下に記す要件をはじめとして、作業上の要件をすべて考慮に入れる必要がある：取り扱う可能性がある他の化学物質、物理的要件（切傷・刺し傷の予防、機敏さ、熱の防護）、手袋の供給業者からの説明書・仕様書。

眼の保護具 : 安全メガネ(サイドシールド付)を着用する。

皮膚及び身体の保護具 : 清潔で、長袖の、全身を覆う衣服を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態 : 液体

色 : 類白色

臭い : 臭いのデータなし

臭いのしきい(閾)値 : データなし

融点/ 範囲	:	液体には該当しない
凝固点		データなし
沸点／沸騰範囲	:	データなし
可燃性（固体、気体）	:	データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界		
爆発範囲の上限 / 可燃上限値	:	データなし
爆発範囲の下限 / 可燃下限値	:	データなし
引火点	:	> 100 ° C
		方法: ASTM（米国試験材料協会） D 93, ペンスキーマルテンス密閉式引火点試験
pH	:	3.67
蒸発速度	:	データなし
自然発火点	:	データなし
粘度		
粘度(粘性率)	:	622.0 mPa.s (20 ° C)
溶解度		
水溶性	:	データなし
蒸気圧	:	データなし
密度及び／又は相対密度		
密度	:	1.05 g/cm3 (20 ° C)
相対ガス密度	:	データなし
爆発特性	:	データなし
酸化特性	:	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	:	反応性危険としては分類されない。

化学的安定性	:	指示通りに保管または使用した場合は、分解することはない。 通常の状態では安定。
危険有害反応可能性	:	推奨保管条件下では安定。 特に言及すべき危害要因はない。
避けるべき条件	:	知見なし。
混触危険物質	:	酸塩化物 酸化剤 還元剤
危険有害な分解生成物	:	分解生成物は温度、空気の供給および他の物質の存在による。 分解生成物は以下のものを含むことがあり、またこれだけとは限らない： 炭素酸化物 窒素酸化物(NOx) フッ化水素 硫黄酸化物

11. 有害性情報

急性毒性

製品:

急性毒性（経口）	:	LD50 (ラット、メス): > 5,000 mg/kg 方法: OECD 試験ガイドライン 425
急性毒性（経皮）	:	LD50 (ラット、オスおよびメス): > 5,000 mg/kg 方法: OECD 試験ガイドライン 402

成分:

スルホキサフロル:

急性毒性（経口）	:	LD50 (ラット、メス): 1,000 mg/kg 備考: 動物にみられる所見には以下のものがある： 筋攣縮あるいは痙攣 震え。 痙攣。
急性毒性（吸入）	:	LC50 (ラット): > 2.09 mg/l 試験環境: 粉じん/ミスト 症状: LC50 値は、到達可能な最高濃度よりも大きい。この濃度では死に至らない。 アセスメント: この物質または混合物は急性の吸入毒性は無い。
急性毒性（経皮）	:	LD50 (ラット): > 5,000 mg/kg 症状: この濃度では死に至らない。 アセスメント: この物質または混合物は急性の皮膚毒性は無い。

プロピレングリコール:

急性毒性（経口）	:	LD50 (ラット): > 20,000 mg/kg
急性毒性（吸入）	:	LC50 (ウサギ): 317.042 mg/l 曝露時間: 2 h 試験環境: 粉じん/ミスト 症状: この濃度では死に至らない。 アセスメント: この物質または混合物は急性の吸入毒性は無い。 備考: ミストは上気道(鼻と喉)を刺激することがある。
急性毒性（経皮）	:	LD50 (ウサギ): > 2,000 mg/kg 症状: この濃度では死に至らない。 アセスメント: この物質または混合物は急性の皮膚毒性は無い。

皮膚腐食性／刺激性

製品:

種	:	ウサギ
方法	:	OECD 試験ガイドライン 404
結果	:	皮膚刺激なし

成分:

スルホキサフロル:

種	:	ウサギ
結果	:	皮膚刺激なし

プロピレングリコール:

種	:	ウサギ
結果	:	皮膚刺激なし

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

製品:

種	:	ウサギ
結果	:	眼への刺激なし
方法	:	OECD 試験ガイドライン 405

成分:

スルホキサフロル:

種	:	ウサギ
結果	:	眼への刺激なし

プロピレングリコール:

種	:	ウサギ
結果	:	眼への刺激なし

呼吸器感作性又は皮膚感作性

製品:

試験タイプ	:	局所リンパ腺評価
種	:	マウス
アセスメント	:	皮膚感作性なし
方法	:	OECD 試験ガイドライン 429

成分:

スルホキサフロル:

種	:	マウス
結果	:	皮膚感作性なし

プロピレングリコール:

種	:	ヒト
結果	:	皮膚感作性なし

生殖細胞変異原性

成分:

スルホキサフロル:

生殖細胞変異原性 - アセスメント	:	In vitro での遺伝毒性試験は陰性であった。動物遺伝毒性試験は陰性だった。

プロピレングリコール:

生殖細胞変異原性 - アセスメント	:	In vitro での遺伝毒性試験は陰性であった。動物遺伝毒性試験は陰性だった。

発がん性

成分:

スルホキサフロル:

発がん性 - アセスメント	:	実験動物で発がん性が認められた。しかし、影響は特定の種においてでありヒトには適用しない。

プロピレングリコール:

発がん性 - アセスメント	:	動物試験では発がん性はなかった。

生殖毒性

成分:

スルホキサフロル:

生殖毒性 - アセスメント	:	動物試験では、生殖を阻害することを示した。しかし、影響は特定の種においてでありヒトには適用しない。これらの濃度はヒトで考えられる用量を上回っている。 実験動物において、高用量で催奇形性が認められた。試験動物では、親動物に対して毒性を示す過剰量を投与すると、体重減少および子の生存率低下が認められた。しかし、影響は特定の種においてでありヒトには適用しない。

プロピレングリコール:

生殖毒性 - アセスメント	:	動物試験では、生殖を阻害しなかった。動物試験では、繁殖性を阻害しなかった。 動物試験で催奇形性や他の胎児への影響はなかった。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

製品:

アセスメント	:	使用可能なデータの評価によれば、この物質は特定標的臓器毒性（単回ばく露）を示さない。

成分:

スルホキサフロル:

アセスメント	:	使用可能なデータの評価によれば、この物質は特定標的臓器毒性（単回ばく露）を示さない。

プロピレングリコール:

アセスメント	:	使用可能なデータの評価によれば、この物質は特定標的臓器毒性（単回ばく露）を示さない。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

製品:

アセスメント	:	使用可能なデータの評価によれば、この物質は特定標的臓器毒性（反復ばく露）を示さない。

反復投与毒性

成分:

スルホキサフロル:

備考	:	動物では、以下の臓器に影響することが報告されている：肝臓。

プロピレングリコール:

備考	:	プロピレングリコールに反復過剰暴露すると、まれに中枢神経系影響を起こすことがある。

誤えん有害性

製品:

物性上、誤えん有害性は低い。

成分:

スルホキサフロル:

物性上、誤えん有害性は低い。

プロピレングリコール:

物性上、誤えん有害性は低い。

12. 環境影響情報

生態毒性

成分:

スルホキサフロル:

魚毒性	:	LC50 (Oncorhynchus mykiss（ニジマス)): 0.387 mg/l 曝露時間: 96 h 試験タイプ: 止水式試験 方法: OECD テストガイドライン 203 あるいは同等のもの
ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性	:	EC50 (Mysidopsis bahia（ミシドプシス・バヒア)): 0.643 mg/l 曝露時間: 48 h 方法: OECD テストガイドライン 202 あるいは同等のもの
藻類／水生生物に対する毒性	:	ErC50 (Pseudokirchneriella subcapitata（緑藻)): > 0.1 mg/l 曝露時間: 96 h 試験タイプ: 止水式試験 方法: OECD テストガイドライン 201 あるいは同等のもの
M-ファクター (水生環境有害性 短期（急性）)	:	1
魚毒性 (慢性毒性)	:	最大無影響濃度 (Pimephales promelas（ファットヘッドミノウ)): > 12.9 mg/l エンドポイント: 死亡率 曝露時間: 30 d

試験タイプ: 流水式試験

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性 (慢性毒性) : 最大無影響濃度 (Daphnia magna（オオミジンコ)): 50.5 mg/l
エンドポイント: 成長
曝露時間: 21 d
試験タイプ: 半止水式

最大無影響濃度 (塩水アミ (Mysidopsis bahia)): 0.114 mg/l
エンドポイント: 子孫の数
曝露時間: 28 d
試験タイプ: 流水式試験
方法: OECD テストガイドライン 211 あるいは同等のもの

M-ファクター (水生環境有害性 長期（慢性）) : 1

土中生物に対する毒性 : LC50 (Eisenia fetida（ミミズ)): 0.885 mg/kg

地上生物に対する毒性 : 混餌 LC50 (Colinus virginianus（コリンウズラ)):
> 5,620 mg/kg 体重

経口 LD50 (Colinus virginianus（コリンウズラ)): 676 mg/kg

経口 LD50 (Apis mellifera（ミツバチ)): 0.146 µg/bee
曝露時間: 48 h

接触 LD50 (Apis mellifera（ミツバチ)): 0.539 µg/bee
曝露時間: 48 d

プロピレングリコール:

魚毒性 : LC50 (Oncorhynchus mykiss（ニジマス)): 40,613 mg/l
曝露時間: 96 h
試験タイプ: 止水式試験
方法: OECD 試験ガイドライン 203

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性 : LC50 (Ceriodaphnia dubia（ミジンコ)): 18,340 mg/l
曝露時間: 48 h
試験タイプ: 止水式試験
方法: OECD 試験ガイドライン 202

藻類／水生生物に対する毒性 : ErC50 (Pseudokirchneriella subcapitata（緑藻)):
19,000 mg/l
エンドポイント: 生長率阻害
曝露時間: 96 h
方法: OECD 試験ガイドライン 201

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性 (慢性毒性) : 最大無影響濃度 (Ceriodaphnia dubia（ミジンコ)):
13,020 mg/l
エンドポイント: 子孫の数
曝露時間: 7 d

試験タイプ: 半止水式

微生物に対する毒性 : 最大無影響濃度 (Pseudomonas putida (シュードモナス プチダ)): > 20,000 mg/l
曝露時間: 18 h

残留性・分解性

成分:

スルホキサフロル:

生分解性 : 結果: 分解性なし
生分解: 0 %
曝露時間: 28 d
方法: OECD 試験ガイドライン 310
備考: この物質は OECD/EC ガイドラインで易生分解性ではなかった。

ThOD : 1.90 kg/kg

光分解性 : 試験タイプ: 半減期 (間接光分解)
感作性: OH ラジカル
速度定数: 1.653E-11 cm3/s
方法: 推定値。

プロピレングリコール:

生分解性 : 好気性
結果: 易分解性
生分解: 81 %
曝露時間: 28 d
方法: OECD テストガイドライン 301F あるいは同等のもの
備考: 10-day Window:合格

結果: 易分解性
生分解: 96 %
曝露時間: 64 d
方法: OECD テストガイドライン 306 あるいは同等のもの
備考: 10-day Window:非該当

生化学的酸素要求量 (BOD) : 69.000 %
インキュベーション時間: 5 d

70.000 %
インキュベーション時間: 10 d

86.000 %
インキュベーション時間: 20 d

化学的酸素要求量 (COD) : 1.53 kg/kg

ThOD	:	1.68 kg/kg
光分解性	:	速度定数: 1.28E-11 cm3/s 方法: 推定値

生体蓄積性

成分:

スルホキサフロル:

n-オクタノール／水分配係数（log 値）	:	log Pow: 0.802 (20 ° C) pH: 7 方法: 測定値 備考: 生物濃縮の可能性は低い（BCF: < 100 または Log Pow: < 3）。

プロピレングリコール:

生体蓄積性	:	生物濃縮因子（BCF）: 0.09 方法: 推定値
n-オクタノール／水分配係数（log 値）	:	log Pow: -1.07 方法: 測定値 備考: 生物濃縮の可能性は低い（BCF: < 100 または Log Pow: < 3）。

土壌中の移動性

成分:

スルホキサフロル:

環境中の分布	:	Koc: 40 方法: 測定値 備考: 土壌中移動性がきわめて大きい(Koc: 0～50)。

プロピレングリコール:

環境中の分布	:	Koc: < 1 方法: 推定値 備考: ヘンリー定数が極めて低いので、自然水系や湿った土壌からの蒸発は多くないと考えられる。 土壌中移動性がきわめて大きい(Koc: 0～50)。

オゾン層への有害性

成分:

スルホキサフロル:

オゾン層破壊係数	:	備考: この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

プロピレングリコール:

オゾン層破壊係数	:	備考: この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

他の有害影響

成分:

プロピレングリコール:

PBT および vPvB の評価結果	:	難分解性、生体蓄積性、毒性（PBT）ではない。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法

残余廃棄物	:	廃棄物や容器の廃棄が製品ラベルの指示通りに行えない場合は、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 以下の情報は購入時の状態のときのみに適用される。使用後或いは汚染された場合、特性や記載事項が適合しない可能性がある。適切な法律に則ってきちんとした廃棄物の識別と廃棄方法を決める。生じた物質の毒性や物理的性質を決定するのは廃棄物排出者の責任である。 内容物や容器を廃棄する場合は、国／都道府県／市町村の規則に従って廃棄する。

14. 輸送上の注意

国際規制

陸上輸送(UNRTDG)

国連番号 (UN number)	:	UN 3082
国連輸送名 (Proper shipping name)	:	ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, LIQUID, N.O.S. (Sulfoxaflor)
国連分類 (Class)	:	9
容器等級 (Packing group)	:	III
ラベル (Labels)	:	9
環境有害性	:	該当

航空輸送(IATA-DGR)

UN/ID 番号 (UN/ID number)	:	UN 3082
国連輸送名 (Proper shipping name)	:	Environmentally hazardous substance, liquid, n.o.s. (Sulfoxaflor)
国連分類 (Class)	:	9
容器等級 (Packing group)	:	III
ラベル (Labels)	:	Miscellaneous
梱包指示（貨物機） (Packing instruction (cargo aircraft))	:	964
梱包指示（旅客機） (Packing instruction (passenger aircraft))	:	964

海上輸送(IMDG-Code)

国連番号 (UN number)	:	UN 3082
国連輸送名 (Proper shipping name)	:	ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, LIQUID, N.O.S. (Sulfoxaflor)
国連分類 (Class)	:	9
容器等級 (Packing group)	:	III
ラベル (Labels)	:	9
EmS コード (EmS Code)	:	F-A, S-F
海洋汚染物質(該当・非該当) (Marine pollutant)	:	該当(Sulfoxaflor)
備考	:	Stowage category A

MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質（該当・非該当）

供給された状態の製品には非該当。

国内規制

国の特定の法規制は、項目 15 を参照する。

特別の安全対策

備考	:	国連番号 3077 及び 3082 に割り当てられた海洋汚染物質は、液体の場合には単一もしくは内装容器あたりの正味容量が 5L 以下、固体の場合には単一もしくは内装容器あたりの正味質量が 5kg 以下の単一もしくは組合せ容器において、IMDG コードセクション 2.10.2.7、IATA 特別規定 A197 および ADR/RID 特別規定 375 に規定されるように、非危険物として輸送することができる。

ここに提供されている輸送分類は、情報の目的だけのためで、本安全データシートの中で解説されるように開梱された材料の特性のみに基づいています。輸送分類は、交通手段、パッケージサイズと地域や地方の規則の変更により、変更される可能性があります。

緊急時応急措置指針番号	:	171

15. 適用法令

関連法規

労働安全衛生法

名称等を通知すべき危険物及び有害物

法第５７条の２（則 34 条の 2 別表２）

化学名	含有量 (%)	備考
スルホキサフロル	>=1 - <10	2026 年 4 月 1 日以降
プロピレングリコール	>=1 - <10	2025 年 4 月 1 日以降

名称等を表示すべき危険物及び有害物

法第５７条（則 30 条別表２）

化学名	備考
スルホキサフロル	2026 年 4 月 1 日以降
プロピレングリコール	2025 年 4 月 1 日以降

毒物及び劇物取締法

非該当

化学物質排出把握管理促進法

非該当

農薬取締法

16. その他の情報

中毒に関する緊急の問合せ先：
公益財団法人 日本中毒情報センター（事故に伴い急性中毒のおそれがある場合に限る）
中毒１１０ 番　　365 日 24 時間対応
一般市民専用電話 （情報料無料）　　（大 阪）072-727-2499
（つくば）029-852-9999
医療機関専用有料電話 （1 件 2,000 円）　　（大 阪）072-726-9923
（つくば）029-851-9999
医療機関の方が一般市民専用電話を使用された場合も、情報料 1 件につき 2,000 円を徴収します。

本 SDS において労働安全衛生法の通知対象物質の濃度が幅表示の場合は、営業秘密である場合を含みます

日付フォーマット　：　年/月/日

その他の略語の全文

ACGIH　：　米国。 ACGIH 限界閾値（TLV）

ACGIH / TWA　：　8 時間、時間加重平均

ADR - 陸路による 危険物品の国際輸送に関する協定; ASTM - 米国材料試験協会; ECx - 任意の X%の反応を及ぼすと 考えられる濃度; EmS - 緊急時のスケジュール; ErCx - 任意の X%の反応を及ぼすと考えられる成長率; GHS - 世界調和システム; GLP - 試験実 施規範; IATA - 国際航空運送協会; IBC - 危険化学 品のばら積運送のための船舶の構造及び設備に関する国際規則; IC50 - 50%阻害 濃度; IMDG - 国際 海上危険物規程; IMO - 国際海事機関.LC50 - 50％致死濃度.LD50 -50％致死量（半数致死量）; MARPOL - 船舶による汚染の防止のための国際条約;

n.o.s. - 他に品名が明示されているものを除く; NO(A)EC - 無有害性影響濃度; OECD - 経済協力開発機構; OPPTS - 化学物質安全性・公害防止局; (Q)SAR -（定量的）構造活性相関; RID - 欧州危険物国際鉄道輸送規則; SDS - 安全データシート; UN - 国連. ENCS - 化審 法の既存化学物質リスト ISHL - 労働安全衛生法

製品コード: C1C-1-1 (GF-2650)

この安全データシート（以下「SDS」といいます。）に記載されている情報は、データシートの作成日現在において当社が保有している知見に基づき作成されたものです。SDS は対象製品の安全な取扱い、使用、加工、保管、輸送、漏洩時および廃棄に関する指針（ガイダンス）としてのご使用のみを意図して発行されるものであり、対象製品について明示、黙示を問わず何らかの保証を行うものでも、また品質規格を定めるものでもありません。また、SDS に記載された情報は、指定された特定の製品の単独利用の場合におけるものであり、SDS に明示的に記載された場合を除き、指定外の物質との併用や指定外の工程での利用において、対象製品が SDS に記載された情報と合致することを何ら保証するものでもありません。

JP / JA